

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。 ※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。  
※本カタログの記載内容は2016年5月現在のものです。 ©2016 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.ALL rights reserved.

～80社以上のグループ企業の会計業務を支える会計基盤に採用～

奉行V ERP &奉行Open-DBで徹底的に人の手を省き、

# 経理業務の全体最適化と 決算早期化を実現

## 奉行V ERP 導入モジュール

- ▶ 奉行V ERP Enterprise Group Management - Edition (勘定奉行V ERP 8、固定資産奉行V ERP 8)
- ▶ 債務管理オプション
- ▶ 奉行Open-DB

先導技術で未来を創る **株式会社** オービックビジネスコンサルタント  
URL <http://www.obc.co.jp>

販売代理店

〈東 京〉〒163-6032 東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー	TEL.03(3342)1880(代) FAX.03(3342)1874
〈札 幌〉〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル6F	TEL.011(221)8850(代) FAX.011(221)7310
〈仙 台〉〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラスタワー20F	TEL.022(215)7550(代) FAX.022(215)7558
〈関 東〉〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F	TEL.048(657)3426(代) FAX.048(645)2424
〈横 浜〉〒220-0004 横浜西区北幸1-11-15 横浜STビル7F	TEL.045(322)0922(代) FAX.045(322)3648
〈静 岡〉〒420-0857 静岡市葵区御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル5F	TEL.054(254)5966(代) FAX.054(254)5933
〈金 沢〉〒920-0853 金沢市本町1-5-2 リファール5F	TEL.076(265)5411(代) FAX.076(265)7068
〈名古屋〉〒460-0003 名古屋市中区錦1-16-7 NORE伏見ビル7F	TEL.052(204)3350(代) FAX.052(204)3354
〈大 阪〉〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F	TEL.06(6367)1101(代) FAX.06(6367)1102
〈広 島〉〒730-0032 広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F	TEL.082(544)2430(代) FAX.082(541)2431
〈福 岡〉〒812-0039 福岡市博多区冷泉町2-1 博多紙園M-SQUARE 9F	TEL.092(263)6091(代) FAX.092(263)6099

先導技術で未来を創る **株式会社** オービックビジネスコンサルタント

奉行V ERP 導入事例

# 株式会社サイバーエージェント

～80社以上のグループ企業の会計業務を支える会計基盤に採用～

奉行V ERP & 奉行Open-DBで徹底的に人の手を省き、

## 経理業務の全体最適化と 決算早期化を実現

### 課題

- ①多岐に渡る事業に柔軟に対応できる仕組みが必要となった。
- ②グループ企業数の増加に伴いグループ会社横串での分析が必要となった。

### 効果

- ①奉行Open-DBの導入により他システムと柔軟に連携できる仕組みの構築に成功。事業展開に対応できる仕組みづくりに貢献した。
- ②グループ企業の会計データをワンクリックで出力できることで、データの可視化が進む。チェック精度の向上によりガバナンス強化が可能になった。

### 導入前の課題

経営スピードを上げるため  
新しい仕組み作りの企画が浮上

株式会社サイバーエージェントは、日本最大のブログサービス「Amebaブログ」をはじめ、トククライブアプリ「755」、インターネットテレビ局「AbemaTV」など、様々なインターネットサービス事業を展開する企業である。現在、グループ企業は80社以上を数えるが、その多岐に渡る事業展開を支えているのがバックオフィスである。

同社ではかねてより奉行シリーズを使用してきた。事業の拡大を支えつつ、グループ全体での決算早期化を実現するため、グループ企業向けの会計シェアードサービスとして2009年に勘定奉行「個別原価管理編」と固定資産奉行、加えて債務管理オプションを追加した。奉行V ERPを採用することで、経営業務の効率化を図り、決算の早期化を実現した。奉行V ERPを軸としたバックオフィス機能の基盤が整った同社は、2015年2月には奉行V ERPをグループ運用向けシリーズである奉行V ERP Enterprise Group Management - Edition (以下、奉行V ERP GM-Edition)に刷新。グループ企業のさらなる管理強化に向け、経営管理の新たなス

テージに立った。一方、グループ企業数のさらなる増加が見込まれているが、管理部門の人数は運動して増やしていくことは回避したいという目標があった。この目標の実現には決算業務における重複作業を排除し、無駄のない決算プロセスの構築を続けていく必要がある。このコンセプトを同社では「ワンファクト・ワンタイム」=1つの事実1度の入力度と呼び、新しい仕組みの構築を目指した。この仕組みの構築には、奉行内のデータを柔軟に出力・活用ができることが不可欠であった。

### システム選定のポイント

他システム連携の柔軟性で  
会計データをタイムリーに共有でき  
決算業務の効率化に貢献

「決算業務の効率化のために、“ワンファクト・ワンタイム”というコンセプトを掲げました。ワンファクト・ワンタイムとは、1つの事実1度の入力度で済ませられる仕組み、つまり、同じ事実を何度もシステムに入力しない仕組みです。」(経営本部 経営システム室 シニアマネージャー 西村 杜礼氏)

同社が掲げるワンファクト・ワンタイムを実現させるためには、奉行V ERPで作成したデータ

(以下、奉行データ)を自由に利用できる状態が必須となるが、パッケージシステムである奉行V ERPは使い勝手が良い反面、作成したデータを容易に取り出せないという弱みがある。同社ではETL(システムからデータを抽出、加工/変換、受け渡しを行うソフトウェア)やDWH(データウェアハウス)、BIツールなど他システムを導入・活用しているが、それらのデータソースとなっているのが奉行データである。そのため奉行データが他システムと柔軟に連携する仕組みが必要となり、同社が選んだツールが奉行V ERPの「奉行Open-DB」だった。

奉行Open-DBの導入が求められたもうひとつの背景が、同社の特徴である「事業の高速なスクラップアンドビルド」にある。経営本部 財務経理室



経営本部 経営システム室 シニアマネージャー 西村 杜礼氏

マネージャー 秋道雄仁氏は次のように説明する。「弊社は多くの会社を抱え、新会社の設立と統廃合の頻度が高いのが特徴です。このようなスピーディな事業のスクラップアンドビルドのサイクルに追いつき、ステージの違う企業の会計業務をまとめていくには、奉行データを様々なシステムと組み合わせて加工し、自分たちが見たい形でデータを見ることができるようにし、枠にはめることなく明細ベースで状況を確認できる仕組みが必要だったのです。奉行Open-DBはまさに理想でした。」

### 導入効果

奉行Open-DBにより  
ワンファクト・ワンタイムを実現  
ガバナンス強化の土台を固め  
連携工数も極小化  
高い整合性と業務削減にも貢献

同社は多くのシステムを活用しているが、その源泉を担っているのが奉行V ERPと奉行Open-DBであると西村氏は説明する。「ワンファクト・ワンタイムが進むことで、これを土台としたガバナンス強化に着手することができています。集約したデータを一覧化して、cockpitのように全体を俯瞰できるような仕組みがこの1つです。グループ企業の奉行内データを奉行Open-DBを介してDWHに渡し、BIツールで分析するという一連の流れを形成しています。こうすれば月次のレポートの高速化だけでなく、異常値がないか、着地予想の数字と大きな差異がないかを素早くチェックでき、ガバナンスの強化につなげられます。また奉行Open-DBは、ETLやDWHへの連携工数をゼロ化してくれることも大きな利点です。」

実務レベルでも奉行Open-DBは高い業務削減

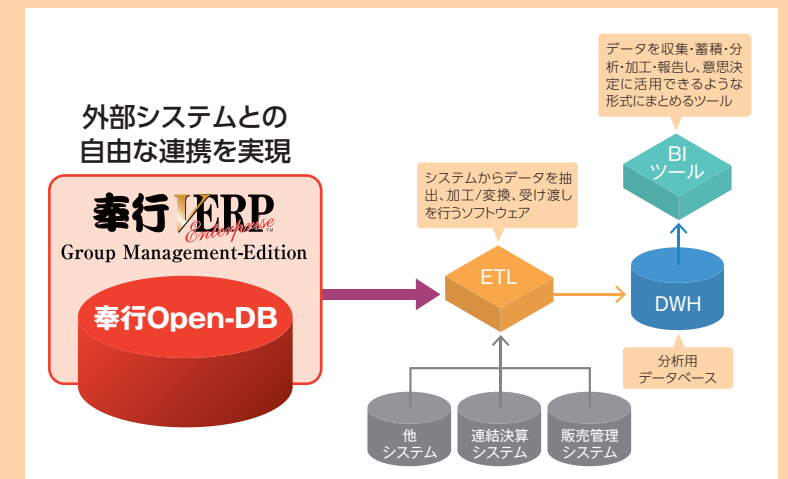


経営本部 財務経理室 マネージャー 秋道 雄仁氏



経営本部 経営システム室 秋道 隆樹氏

### システム概要図



奉行Open-DBとは  
奉行Open-DBとは、奉行V ERPで作成したデータを、自由に使用できる開かれたデータベース。データベースに格納された情報は、自社システムや連結決算システム、BIツールやレポートツールなど様々なシステムからの参照や連携による多様なデータ活用を実現する。

### 今後の展望

データ自体の精度向上が課題  
ダイヤモンドファクトを目指して

「奉行Open-DBを活用して進めているのが、キャッシュフローの増減明細作成の効率化です。勘定科目内の増減内訳を把握しなければならないため、仕訳明細ベースでフラグを立てて対応しています。この業務でも奉行Open-DBを活用し、必要な仕訳を集める仕組みを作っています。また、奉行Open-DBなら決算前にボタン1つでチェックすることができるため、連結決算時に行う内部取引のアンマッチチェックを行うことで決算も早くなりました。」(秋道氏)

「各社各様の科目設定であっても、データを集約できたことで連結から単体へのドリルスルーも行えます。連結で見たい、科目を企業ごとに横並びで見たいなどにも対応できるようになりました。」(経営本部 経営システム室 迫田隆樹氏)

奉行Open-DBと他システムが連携したことで、グループ内の内部取引のアンマッチチェック、特定勘定科目の分析とモニタリング、連結から単体へのドリルスルー、入力データの精度チェックなど、同社が求める要望を実現している。

同社では1年に20以上の新会社や、新しい事業が生まれている。そうした社風の中ではバックオフィスにはルールや枠にとらわれない柔軟な対応が求められる。同社にとって奉行Open-DBが、今後の事業のイノベーションを後押しするシステムになるはずだ。

(以上)